

あぶくま

a 登録番号：第4237号

来歴：「ゆうぞら」の枝変わり

登録年月日：平成7年1月26日

育成地：福島県伊達郡伊達町

登録者：小野武司

特 性

■栽培特性

樹姿は中間、樹の大きさおよび樹勢は中である。枝梢の太さは中、節間長は短、葉身の形はやや長、葉縁の波打ちは多、葉の大きさはやや大、色は緑、蜜腺の形は球腎である。花の大きさは大、花弁の形は楕円、波打ちは有、色は桃、花粉の多少は有、がくの色は淡紅である。生理落果の多少はやや少、核割れの多少は微、裂果は少である。

■果実特性

成熟期は満開後141～150日で、「ゆうぞら」と比べて2～10日（平均6日）遅く、育成地においては9月上中旬である。果実の外観は扁円、果頂部の形は中の凹、梗あへの深さは深、広さは中、赤道部の縦合線は中である。果実の大きさは300g（平均343g）程度でやや大、果皮の地色は白、着色はやや多、濃さはやや濃、形はぼかし、毛じの有無は有である。果肉の色は乳白、果肉内の着色は少、核周囲の着色は多、果肉の粗密は密、果肉繊維の多少は少、果皮の剥離性はやや難、肉質は溶質である。果汁の多少および甘味は多、酸味はかなり少、渋味は微、苦味は無である。核と果肉の粘離は粘核、核の形は楕円、大きさは大、色は濃褐、核面の粗滑は滑である。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

病虫害抵抗性については、「ゆうぞら」と特に差は認められないので、「ゆうぞら」に準じた防除が必要である。

「ゆうぞら」と比較して、樹勢がやや弱く、樹勢が低下すると核障害がやや多い傾向にある。食味は、「ゆうぞら」より糖度で1%程度高く甘味が強いが、年により渋みを感じる場合がある。長さ3～10cmの短果枝で良果が生産される。

樹勢を低下させると核障害が発生しやすいので、摘雷を丁寧に行い、摘果回数を多くして、過度の夏季剪定等の果実肥大の急激な変化を引き起こすような管理を避ける。

■地域適応性

福島県中通り平坦部以南であれば、特に問題なく栽培できると思われる。極晩生種であり、収穫は9月以降の品種であるので穿孔細菌病の罹病を避けるため強風の発生しやすい地帯や土壌水位の高い地域、台風の常襲地帯での栽培は避ける。

(佐藤 守)